

令和4年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：(理科)科目：(物理基礎) 対象：(第2学年1組～7組)

教科担当者：(1組:石川^印)(2組:石川^印)(3組:高橋^印)(4組:高橋^印)(5組:高橋^印)(6組:茂木^印)(7組:茂木^印)

教科・科目の 指導目標	物理現象に関する基本的な理解と論理的・科学的思考の育成。物理基礎の内容理解と物理への意欲の育成。 物理的な考え方ができ、問題を科学的に分析し、論理的な説明が出来るようになる。
----------------	--

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和2年度からの自宅学習期間が引き続いたため、教室で授業を始めたころの生徒の取り組みは集中できていない様子であった。現象を把握し結果を理論的に考察する問題を苦手とする生徒が多い状況が続いている。特に令和4年度物理領域の問題を通じて、電磁気に関する内容については中学校の内容までさかのぼって丁寧な指導が必要であることが判明した。また図や表・グラフを読み取り考察することを苦手とする生徒が多い。理科は暗記する学問ではなく、知識を積み重ね、それを活用することが必要であるということを学べるよう授業を工夫していく必要がある。	1. 物理分野の学習においては、現象を分析・理解する過程で数値処理を行う場面が増加していく。こういった学習過程を通じて科学の見方や考え方を養うため、基礎的な計算力を育成するとともに、物理現象を理解できるようにする。 2. 物理現象が生活に密着していることや様々な場面で応用されていること、違和感を感じる現象について科学的に説明できるようになること、結果を予測できること等を伝え、物理現象を体験できるように指導する。 3. 物理量の間には数値的にも規則的な関係が成り立ち、原因から結果を導くことができることを学べるように指導する。	1. 生徒実験や演示実験を通して物理現象や物理量に対する理解深めさせる。 2. 演習ではなるべく計算しやすい数値を用い、計算力より物理現象の理解を重視する。 3. 生徒実験のレポートに考察事項を設け、実験の結果に対して、理解が深まるようにする。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			